



# 阪神カウンセリング・ラボ ニュースレター

2024 6月号



## 心理療法（7） 問題行動を繰り返す あるクライアントさんの臨床例（つづき）

Aさんのカウンセリングは、主として傾聴で進めました。しかし、話を聴くだけでは限界があり、何かしらの洞察が起こるカウンセリングが必要だと思いました。そこで、KJ法が使えるのではないかと思ったのです。KJ法とは、文化人類学者、川喜田二郎氏が考案した手法で、アイデアや考えをグループ化し、整理しまとめていき、問題解決に導くための方法です。Aさん自身が自分のことを知るために、KJ法の作業が役立つと考えました。

まず、それまでのカウンセリングで話された記録をコピーし、それらを文節ごとに切って、カードにしました。そのカードの整理を進めていくことで見えたのは、Aさんの言動の背景には、親子関係、とくに母親との関係があるということでした。Aさんの心には、親は自分のことをわかっていないということが強くありました。Aさん自身が作業をすすめていくことを通して、自分が話したことが目に見える形で整理され、自分の言動の背景を理解することができたと思います。

その後、その整理したものをご両親にも見てもらい、Aさんを理解するためのカウンセリングを行いました。また、Aさんをご両親同席のカウンセリングも行いました。このようなカウンセリングを通して、病棟でイライラすることはあったようですが、それまでのような過激な言動はなくなり、次第に安定してきました。

そこで、医師の了解を得て、一時的に帰宅し、様子を見て、その後の対応を考えていくことにしました。最初は一週間、二度目は二週間というように家で生活する期間を延ばしていきました。その結果、それまで、ほんのちょっとしたことで荒れていたAさんの言動は見られず、いずれの期間も、親も安心して暮らせたそうです。そして、Aさんの退院が決まりました。

退院する時に、どんなことがあっても、決して他者を殴らないということを約束しました。30年経った今でもその約束は守られています。

阪神カウンセリング・ラボ 梅田相談室

<https://www.hanshin-cl.com/>

〒530-0014 大阪市北区鶴野町4-11 朝日プラザ梅田9階910

Tel/Fax 06-6147-2533

E-mail [hanshin-c.l@star.ocn.ne.jp](mailto:hanshin-c.l@star.ocn.ne.jp)

